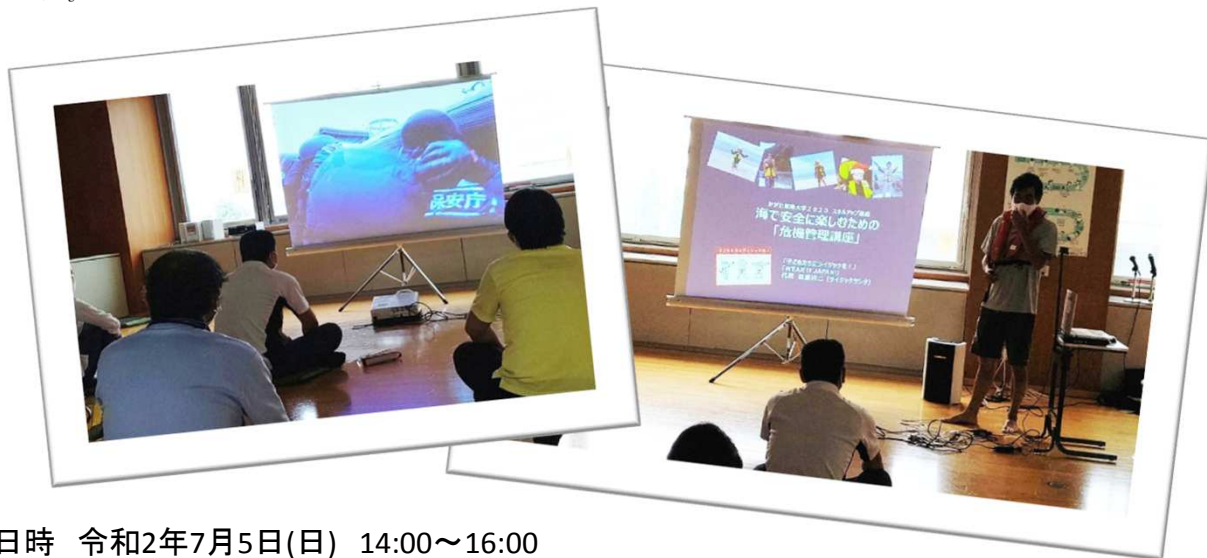


## 海で安全に楽しむための危機管理講座 開催しました!



- 日時 令和2年7月5日(日) 14:00~16:00
- 会場 香川県社会福祉総合センター(高松市番町)
- 講師 高松海上保安部 航行安全課職員  
ライジャケサンタ 森重 裕二氏

7月5日(日)に、「海で安全に楽しむための危機管理講座」を開催しました。

最初に、高松海上保安部航行安全課職員の方から講義いただきました。

海上保安庁の“海の安全を守る”などの業務紹介のDVDを見たあと、「海岸に潜む危険性と事故事例紹介」と題してお話いただきました。

海岸の危険性には、“海中の見えない深み”や“浮き輪やゴムボートは風の当たる面積が多く流されやすい”といった危険性があるそうです。また、海岸で注意すべき“離岸流”と“戻り流れ”の海水の流れについて、海水の流れを示しながら説明がありました。

さらに、海で事故を起こさないための三つの基本として、「救命胴衣を着けること、連絡手段(スマホ)を持つこと、事故が起きたらすぐに118番をすること。」を教えてください、受講生の皆さんは熱心にメモをとっていました。

続けて、香川県で“子どもたちにライジャケを!”の活動をされている森重さんから講義いただきました。

まず、活動を始めた経緯をお話いただきました。もともと小学校教諭をされていた森重さん。近隣の小学校児童2名が四万十川で死亡するという事故があって、居ても立っても居られず、すぐさま“子どもたちにライジャケを!”のホームページを立ち上げられたそうです。それから13年経った現在も、FBなどさまざまなSNSから“子どもたちにライジャケを!”の情報発信を行っています。





ライフジャケット着用なしで、人間はどれくらい浮くことができるか、人型模型を使った実験を見せてくれました。人型模型の頭頂部の一部分しか水面に出ていないのを見て、受講者は驚いていました。

続いて、「おぼれる人は、どんなイメージ？」と尋ねられました。一般的には、“バチャバチャと音を立てたり、声を出しておぼれている”というイメージがあります。しかし実際は、“一瞬で”沈むそうです。音もなく沈んでいく映像を見て、受講者は言葉を失っていました。



また、「ライフジャケットを着けていても過信せず、うずの起こる箇所など危険な場所がないか、活動する現場の状況を事前に調べておく必要がある。」と、お話いただきました。

最後に、「子どもの安全を守るのは“大人の役割”だと強く認識して、安全のために子どもたちにライフジャケットを着けさせることから始めよう。」とお話いただきました。

受講者からは、「様々なライフジャケットを展示いただいているが、具体的にはどんなライフジャケットが良いのか。」といった質問があり、海での活動の安全対策に関心が高い様子でした。